文庫めぐり (16)

鶚軒文庫

［由来］ 東京帝国大学医科大学教授（皮膚科・泌尿器科）土肥慶蔵の旧蔵書。文庫名は土肥の別号に由来する。「鶚軒」の号は土肥の漢学の師総生寛（一八四三〜九三）命名にかかる鶚鷙堂の転化であり、他に百不如斎とも号した。『漢書』鄒陽伝「鷙鳥累百、不如一鶚」を出典とする。

［土肥の経歴］ 土肥は慶応二年（一八六六）六月九日に越前府中藩医・五世石渡宗伯（一八二五〜七七、新宮涼庭・船曳卓堂・日野鼎哉門）の二男として出生。十五歳で上京し、予備門を経て東京大学医学部に入学（一八八五）。外科を専攻し、傍ら総生寛に漢詩文を学ぶ（八六〜八七頃）。母橋本氏の弟土肥淳朴の養嗣子となる（八九）。帝国大学医科大学卒業後、附属第一医院外科にスクリバの助手となり入局（九一）。大学院を経て（九二）、欧州留学中（九三〜九八）外科から皮膚科に転向を命ぜられ、帰朝後、医科大学教授となり皮膚病黴毒学講座を担当（九八〜一九二六）。医博（九九）。日本皮膚病学会初代会長（〇〇〜二七）。妻多越子は財閥三井元之助の妹。著者『外科汎論』『皮膚科学』『世界黴毒史』『鶚軒游戯』『鶚軒詩稿』等。昭和六年（一九三一）十一月六日没、六十六歳。墓、東京多摩墓地。

［文庫の沿革・概要］ 経済的余裕と多方面の関心を併せ持った土肥の収書の全容は『鶚軒文庫蔵書目録』（国会図書館所蔵、一九二九、ペン書、一三二三頁）で知られる。土肥没後、蔵書は妻の縁で三井文庫に移り、第二次大戦後、次の四機関（他にもあるか？）に分蔵されたようである。

東京大学総合図書館　同館所蔵古医書（約三〇〇〇部強）中、鶚軒本は過半（一七〇〇部強）を占め、多紀・浅田宗伯・森枳園・小島宝素ら名家旧蔵本を多量に含み、質量共に同館古医書の中核をなす。医史・随筆・医経（基礎）・経方（臨床）・養生（衛生）と幅広く揃うが、本草がやや少ない。『東京大学総合図書館古医学書目録』（一九八八）著録。

国立国会図書館　日本漢詩文関係の収書として最大規模のもの。約四〇〇〇部九〇〇〇冊。『鶚軒文庫日本詩文書目録』（一九一二刊）は一一〇〇部強に過ぎず、現在、古典籍資料室のカード目録（三井文庫時代に作成）のみ。曲直瀬正珪・浅田宗伯・清川玄道らの自筆稿本を含む。

東京医科歯科大学附属図書館　皮膚科学を中心とした洋書一三四〇冊、和書二三二冊、雑誌・写真。『鶚軒文庫目録』（一九八〇、雑誌篇一九八九）がある。

カリフォルニア大学バークレー校　上記以外の分野（哲・史・文・法制・地理・芸術等）の蔵書。国文学研究資料館に文学関係部分の複製本がある。

（町　泉寿郎）